

## 令和元年度 第1回 豊田市男女共同参画推進懇話会会議録

- **日時** 令和元年5月29日(水) 午前10時00分～11時30分
- **場所** とよた男女共同参画センター 21会議室
- **出席者** 懇話会委員 石田路子(座長)、吉野まり子(副座長)、尾原洋子、松井恒雄、斎藤万里、伊藤健一、若月めぐみ、大代知穂、古澤三秀、野村文子
- 事務局 生涯活躍部副部長 清水、市民活躍支援課長 濱田、とよた男女共同参画センター 清水、深谷、(株)都市研修所スペース ショウ
- **欠席者** なし

### 1 開会

清水副部長挨拶

### 2 議事

#### (1) 第3次男女共同参画プラン進捗状況について

事務局が資料に基づき説明。

#### <発言>

##### A委員

小中学生への啓発について、道徳の授業は年間35時間実施しないといけないので、そこで扱えるよう、1時間でできる啓発プランと副読本を作成し、提供するとよい。教員のやる気や知識で指導に差があるのはよくない。

教職員の研修や勉強会で提案資料を情報提供するとよい。新任研修がたくさんあるし、新任に提供しておけば効率的に教材のPRができる。学校教育課を通じて研修などへの参加を依頼するのもよい。

##### B委員

ひとり親家庭への就業支援について、就業率100%という目標設定が高すぎると思う。対象者に対してどれくらいの就業率かという妥当なラインがあると思うが、なるべく多くの人に情報がいきわたるような工夫が必要。

C委員

女性の審議委員登用のしくみづくりについて、委員の交代時は各団体等でおそらくルーティーンになっている。現委員が退任する時、後任を女性に引き継ぐということにすれば、おのずと就任率があがる。

## (2) 第4次クローバープランの改定について

事務局が資料に基づき説明。

<発言>

B委員

男女共同参画を前提に個人の生きがいづくりを推進するということがよいか。

事務局

そのとおり。

B委員

個人の生きがいづくりについては、就業、趣味、勉強など部分的に推進するのではなく、1つのところで多方面を幅広く取り扱う市民大学のようなものを構想するとよいと思う。

D委員

地域と連携する場合、自治区や区長会等へ協力依頼をすると男女共同参画の発展につながりやすいと思う。

E委員

男女の対立にみられがちという点について、かつては市民活動と地域活動も対立構造の時代もあった。今は両方で連携していける時代になっていると思う。

B委員

重点取組案で「女性が生涯を通じて…」とあるが、女性の就業などでの活躍もちろん推進していくのだが、男性でも活躍できていない人もいると感じる。女性は仕事の充実、男性は仕事以外の充実など、女性に限定せず、多様な人々の活躍を掲げられるとよい。

事務局

いただいた意見をもとに、改善をおこなう。

### (3) 事業実見評価について

事務局が資料に基づき説明。

<発言>

B委員

今回の事業は、多数内容の構成になっているので、それぞれのところで評価できる様式になっているとよい。

事務局

様式スタイルを改善する。

### (4) 男女共同参画全国都市会議について

事務局が資料に基づき説明。

質疑なし

## 3 その他

今年度懇話会スケジュール案の報告

## 4 閉会

濱田課長挨拶